

第2章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼):古原 忠/図書係長:真籠 元子/図書系職員:富田 小満子/事務補佐員[3名]

1. はじめに

図書室では、1800年代から今日までの材料科学に関する幅広い領域の資料を収集・所蔵している。金研が歴史的に金属・材料研究の中心であり全国共同利用機関となっていること、さらに物質・材料学では世界の最先端にいることから、所内・学内はもとより国内外からの研究者の来訪も多く、図書室は幅広いサービスを提供している。

2. 組織・運営

図書室は、図書係として金研事務部総務課に属し、係長を含む職員2名、パート職員3名で業務を行っている。図書室の運営は情報企画室のもとで行われ、その専門委員会として図書電子化委員会(※)が設けられている。

業務の特徴としては、部局図書室として唯一附属図書館を介さず独自の図書受入・支払→目録・分類→登録の体制を維持し、研究者へ迅速に資料を提供している。また、学術情報のデジタル・コンテンツ化が急速に進展する中、図書室においても素早く適切な対応が要求されているが、これに対応するため若手研究者を中心に構成された図書電子化委員会と連携し利用者の視点に立った電子化整備を推し進めている。研究者と図書室による情報整備に関わる委員会の存在は、学内唯一で特筆すべきことである。外国雑誌価格の高騰や冊子体から電子ジャーナルへの切り替えなど様々な問題に係る取り組みが全学的に行われる中で、本所ならではの利用者ニーズを把握しつつ親しみやすく快適な図書室であるよう常に心掛けている。

※図書電子化委員会

・2006年度

三谷誠司委員長、大山研司、筒井健二、大島勇吾、佐原亮二、土屋文、大友明、山村朝雄、各委員

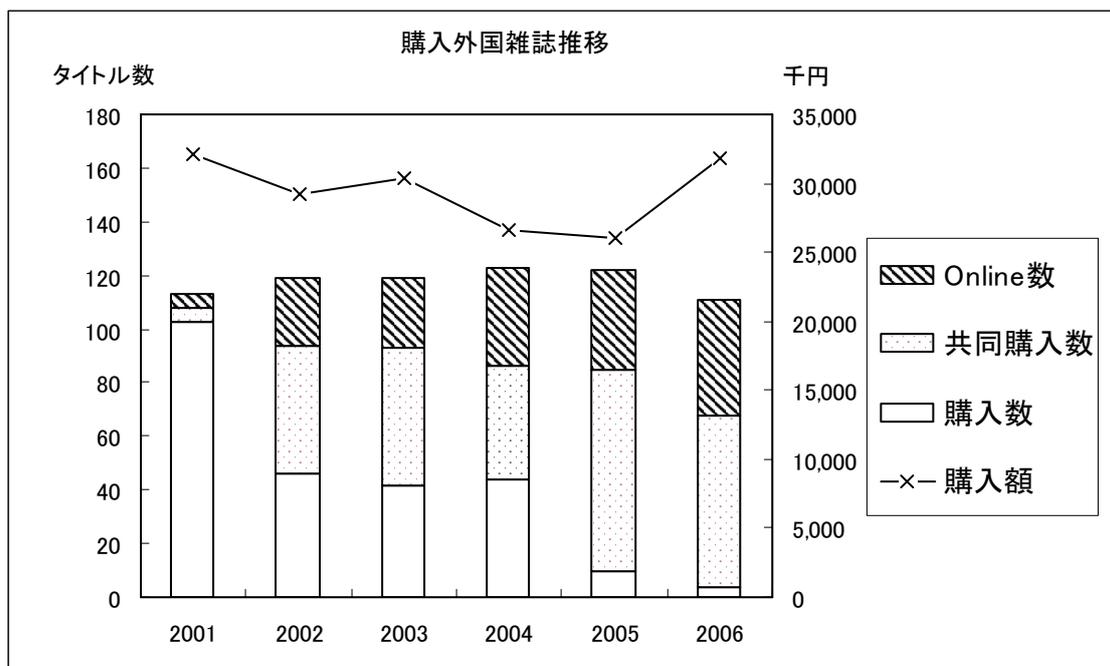
(オブザーバー：情報企画室図書担当兼附属図書館商議員、総務課長)

3. 外国雑誌および電子ジャーナル

2003年度より開始された「学術情報整備計画」に従い雑誌については共同購入をしているが、外国雑誌の価格高騰によりタイトル維持が難しくなってきたため、2006年は1/4に当たる24タイトルを中止したが、負担額は前年に比べ580万円ほど増加した。外国雑誌の値上がりは毎年約10%で、大学全

体で見ると 5000 万円以上のアップとなることから、図書室では購入額の抑制として 2007 年に向け、一部のタイトルを「冊子体+電子ジャーナル」の契約から「電子ジャーナルのみ」の契約に切り替えることとした。パッケージ契約のため中止できないものもあるが、できる限りの冊子体を中止した。また、2006 年の共同購入に決定していながら契約額の面で保留となっていた内国雑誌（欧文）3 誌の共同購入については、金研が中心となって各部局と調整し、2007 年 1 月発行分から共同購入として受け入れることとなった。金研独自での購入では「日本金属学会誌」の電子ジャーナルを契約し、全学で利用可能とした。

負担率については毎年算出方法が変更になり予算を立てにくい状況であったが、学術情報整備検討委員会において、現在の中期計画では教員人数と電子ジャーナルアクセス統計をもとにした比率（1：1）を使用し負担額を決定するということが承認された。それにより急激に負担額が増える部局があることから緩和策を採用し、3 年間の移行期間を設けることにした。これにより、2007 年以降は予算案も考え易くなると思われる。



*Online 数は共同購入のうちの電子ジャーナルのみ利用できる数

- ① 前年度、全額共同購入として採用されながら価格を含む契約の面から保留となっていた「Japanese Journal of Applied Physics. Pt. 1, Pt. 2」と「Journal of the Physical Society of Japan」について、再度全学共同購入雑誌として採用され、2007 年 1 月発行分より受け入れることとなった。
- ② 2005 年度、「国立情報学研究所が電子化する研究紀要」に採用された金研刊行物「Science reports of the Research Institutes, Tohoku University. Ser. A. (RITU)」が、2006 年度より Full Text で公開された。

4. 蔵書管理

書庫の蔵書点検は定期的に行い、所在の確認をしている。

4.1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。継続購入としては、国際会議録の新刊の追加や欠号補充、個人で購入しにくいシリーズものや **Material Science Forum**（所内の教員が執筆したものを中心）などを購入しており、その点数は約 30 点に上る。また、他大学に対し複写依頼の多いものや物質材料系の基本的な図書（日本金属学会刊行物など）、図書電子化委員から推薦のあったものや新刊カタログなどを元に充実を図っている。

4.2 蔵書点検・実査

附属図書館の中期計画・中期目標に従い、2 年計画で蔵書点検・実査を行うことにした。作業は 2 人 1 組で現物の資料番号を読み取っていくものだが、1 年目の 2006 年度は 1 ヶ月にわたり係員全員で 2 号館書庫 35,000 冊の点検を仕事の合間を縫って行った。残りの閲覧室、閉架書庫、3 号館書庫は次年度に行う予定であるが、予想以上に手間が掛かることから、通常業務の合間に係員が行うことはかなり困難であると予想される。来年度どのようにするかは、別途検討中である。

4.3 遡及入力

電算化される以前に受入れた資料を図書館所蔵データベースへ登録する遡及入力は、2006 年度で研究室所蔵分の登録がほぼ終わった。これで、所内の遡及入力は終了したことになる。その結果、図書の管理や研究室からの返却図書の処理が安易にできるようになった。また、OPAC での検索にもヒットすることにより、利用者への提供もし易くなる。研究室所蔵図書の遡及入力について、作業が終了したのは学内で金研が初めてである。

4.4 金研出版物の保存

金研で発行する報告書や広報誌などは、可能な限り収集し図書室で保存している。また、ここ数年それらに対する問い合わせなども増えていることから、過去に発行されたものについても収集していきたいと考えているが、過去の欠号補充が困難なものもあり、スペースの問題も含めて今後検討が必要である。

5. 利用者サービスの充実

利用者との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年 4 月、金研の新メンバーのために図書電子化委員を講師に迎え、主要なデータベースの講習と

図書室のオリエンテーションを行っている。2006年度は講習会名を「図書電子化情報サービス講習会」から「図書室オリエンテーション」に改め、利用者が気軽に参加できるようにした。名前を変えた目新しさもあってか、参加者は前年度の2倍の79名に上った。

さらに、附属図書館が随時開催する新たなデータベースの説明会等の際は、金研の講堂での開催に積極的に協力し、学生や研究者がより効率的に利用できるようサポートしている。また、他キャンパスで行われるものについてもアナウンスしている。

開催日	内容	主催	参加者
2006.4.27	図書室オリエンテーション	金研図書電子化委員会・図書係	79名
2006.5.23	Technology Research Database(CSA社)説明会	附属図書館	24名
2006.6.2	「インパクトファクターセミナー:材料系」(ISI社)説明会	附属図書館	36名

5.2 情報検索コーナー

図書室では図書電子化委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで自由に利用できる環境を整えている。2006年度は、新たに二元/三元系状態図の検索ツールである「Alloy Phase Diagrams」を追加した。毎年利用できるデータベースが増えていく中で、安定した情報を利用者へ提供するために、CD-ROMサーバの更新も行った。また、データベース用にパソコン4台、Online Catalog/電子ジャーナル用に1台（いずれもWindowsXP）を設置し、利用者が必要な時にいつでも使えるよう心掛けている。また安全対策として、ウィルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。近年、データベースのオンライン化が進み研究室から利用できる環境が整ってきているが、図書室でしか使えない重要なツールもあり、今後も情報検索コーナーの充実を進めていきたい。

CD-ROM	オンライン
ICDD Cards (2006)	Online Catalog (図書館蔵書検索)
Binary Alloy Phase Diagrams	Online Journal
Ternary Alloy Phase Diagrams	Web of Science (1900～)
Pauling File	inside web (1993～)
Phase Equilibria Diagrams (1913～2003)	Alloy Phase Diagrams
Landolt-Bornstein Comprehensive index	SciFinder Scholar (1840～)
その他	Journal Citation Reports Web
	GeNii
	特許電子図書館(特許庁ホームページ)

5.3 ホームページの充実

図書室では、有用な情報をいち早くキャッチし、「お知らせ」での広報やリンクを作成するなど充実したホームページとなるよう心掛けている。

2006年度は「MyLibrary」の機能が追加され、図書館のサービスや電子ジャーナル、データベース等を効率的に利用できるよう、個人のページが作成できるようになった。既に実施されていた Web 上での図書の予約、文献複写申込（校費）に加え、他キャンパスからの図書の取り寄せや Online 上でのレファレンスサービスなどもこの「MyLibrary」を利用することで可能となった。

また、外国雑誌の電子ジャーナル化が進む中、Online Journal のリンク集（金研版）は1ヶ月おきに係員全員でリンクチェックを行うなどきめ細かなメンテナンスを行い、利用に支障のないようにしている。その他にも、冊子体の新着状況を確認できるリンクや利用上のルール案内、情報検索(データベース)に関する Q&A や使い方なども掲載し、利用者の疑問がホームページ上で解決できるよう充実に図っている。

さらに、他にあまり例のない国際会議録のページについては、金研に関連する43会議について、過去の会議録を追跡調査し、最新の所蔵情報も継続して掲載するようメンテナンスを行っている。

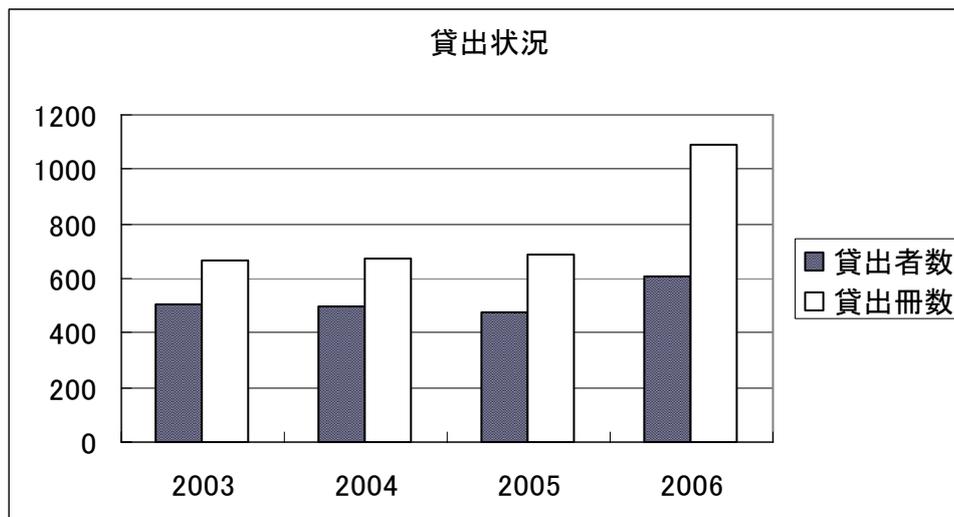
5.4 自己点検評価(附属図書館)

附属図書館の自己点検評価報告書を作成するにあたり、部局図書室として金研図書室もその対象となった。前回に引き続き利用者アンケートを実施したが、結果、本分館が評価値よりも期待値が上回っている中で、金研図書室は全体的に期待値よりも評価値の方が高いという結果になった。これは、教職員から図書室が高く評価されていることを現している。しかし、細かな項目では、保存スペースや資料の充実、資料の配架の分かり易さなどの評価が低く、これらは今後の検討課題である。

5.5 資料の提供

電子ジャーナルやデータベース等デジタル・コンテンツの利用が増大する中で、図書の貸出については次にある貸出状況の図で示されているように、前年の1.5倍となった。特に基礎的なもの、シリーズとして継続的に受け入れている図書の貸出が多いと予想される。今後も、一層図書の充実に努めていきたい。

2006年度は、本分館・各図書室間の図書などを指定する図書館（室）に取り寄せ・返送することができる、キャンパス間資料搬送（取寄せ貸出・返却返送）サービスの試行を行った。このサービスは、今まで金研以外の資料を貸出・返却する場合、直接所蔵館に足を運んで手続きを行っていたが、利用者が指定する図書館（室）に取り寄せ貸出・返却を行うことができるというものである。期間は当初2006年7月～12月の6ヶ月間を予定していたが、要望が多いため年度末まで延長した。このサービスは利用者に大変好評で2007年度より本実施することとなった。今後は貸出・返却の発送作業が増加すると予想されるが、試行期間中、サービスの対象としていなかった片平地区内同士もサービスエリアに含むことにした。



5.6 その他

図書室に設置している、4台のコピー機のコピーカードの管理は各研究室に依頼しているが、その状況を把握するため毎年調査を行っている。

2006年度は、新しい試みとして、4月の科学技術週間に合わせパネル展示を行った。これは「2035年の科学技術：文部科学省デルファイ調査」を元に材料科学に関する部分を展示したもので、展示期間は3週間程度であったが、その間この調査あるいは展示の内容について数件の問い合わせがあった。図書室からの情報発信として、今後もこのような展示を企画していきたいと考えている。

また、図書室は情報発信の場に加え所内に所属する者の共通の場でもあることから、海外からの研究者向けに生活情報や仙台の地図などの日常役立つような冊子等を閲覧室に配置した。

6. 文献複写（図書館間相互利用サービス）

学内の各図書館および学外の大学図書館との相互の文献複写サービスは、研究上、学術雑誌論文が欠かせない金研においては重要な業務であり、必要な論文を依頼から1週間以内に利用者へ手渡せるよう迅速に処理している。学術雑誌の電子ジャーナル化の影響で全国的に相互利用の件数は減少傾向にあるが、金研は主要な学術雑誌（電子ジャーナル含）のコレクションが充実しているため、2006年度は学内について受付件数が依頼件数の約2倍、学外においては約5倍以上となっており、図書室の業務の中で占める割合も年々増加している。前年度比では、学外の依頼が前年度の1.5倍以上に増加している以外すべて件数が減少しているが、この理由として、受付件数の減少は学内の電子ジャーナルの促進、学外依頼件数の増加は学術情報整備計画により中止された雑誌による影響が考えられる。

文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも学内を中心に利用されているが、e-DDS(※)の実施についても検討されているため、年度末に画像伝送システムを複合機に変更した。スキニングした画像をその場で確認できないという問題はあるが、より鮮明な画像を迅速に送受信できるようになった。

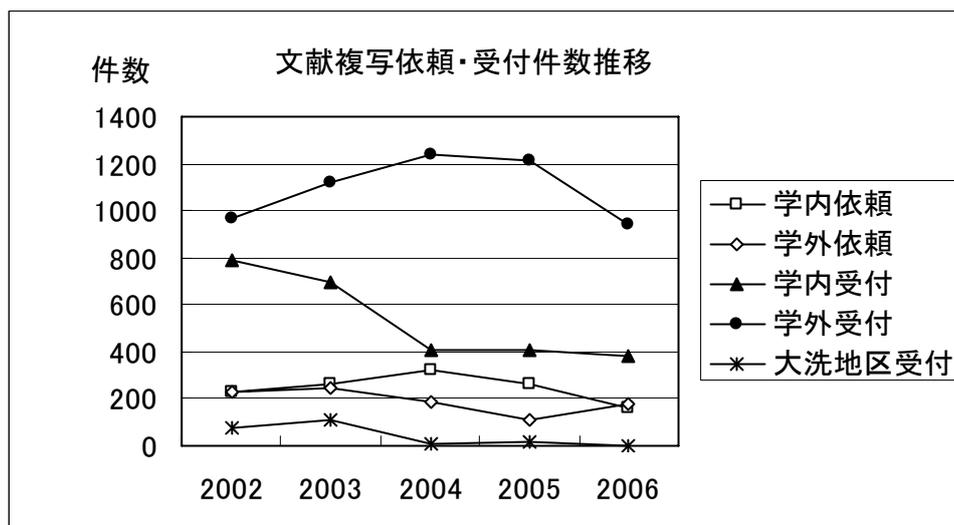
また、附属図書館においてカラーコピーの複写料金が設定されたことにより、所内の料金もそれに

合わせ所内・他部局の料金をそれぞれ1枚70円・100円から統一料金の40円とした。

今後の課題としては、現物貸借や私費複写の対応などがあるが、私費の取り扱いについては関係する係と話し合いは行ったが、結論にはいたらず検討中である。

※e-DDS:Electronic Document Delivery Services

(必要な文献を研究室等のパソコンから入手可能とするサービス)



	依頼			受付			
	学内	学外	計	学内	学外	大洗地区	計
2002 年度	232(2)	226	458(2)	792	967	79	1,838
2003 年度	259(36)	249(1)	508(37)	699(57)	1,118(16)	108	1,925(73)
2004 年度	320(88)	190(1)	510(89)	410(33)	1,236(19)	10	1,656(52)
2005 年度	260(54)	108(8)	368(62)	411(9)	1,217(11)	13	1,641(20)
2006 年度	161(40)	177(2)	338(42)	384(4)	944(11)	8	1,328(15)

* ()は画像伝送システムによる件数(内数)

* 大洗地区は金研附属施設からの依頼に対する送付

* 学外からの現物借用件数は含まず

7. その他

研究支援の場としての役割が益々重要となり、図書室は利用者のニーズに応えるべく多様なサービスが求められることから、研究会、勉強会に積極的に参加している。また、図書系職員として附属図書館が中心になって進めている、各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

7.1 研修、勉強会

- ・ 目録システム地域講習会（雑誌コース）
- ・ 著作権講習会
- ・ 機関リポジトリシンポジウム
- ・ 資料搬送サービス説明会
- ・ ASK サービス説明会
- ・ ILL 説明会
- ・ 会計事務基礎研修
- ・ e-book 説明会
- ・ 国際シンポジウム（国立情報学研究所教育研修事業）

7.2 各種委員会、ワーキンググループ、会議等

- ・ 学術情報整備 WG
- ・ 学術情報発信 WG
- ・ 自己点検評価 WG
- ・ 図書管理 WG
- ・ 図書館構想検討プロジェクト
- ・ 目録 WG（図書館システム）
- ・ 附属図書館商議会（陪席）
- ・ 附属図書館運営会議（陪席）
- ・ 学術情報検討委員会（陪席）
- ・ 分野別資料選定 WG（陪席）